

おいしい地場産品に舌鼓

地場産品まつり

都城圏域の地場産品や商工業製品を展示販売する地場産品まつりが10月23日と24日の2日間、都城圏域地場産品振興センターで開かれました。県内はもとより、鹿児島県や大分県から約100社が参加。訪れた買物客らは霧島連山を囲む4市の自慢の逸品であるしいたげやお茶などの地場産品を買い求めたり、郷土芸能を楽しんだりしていました。家族と来ていた平田幸之門さん（中原町）は「毎年来ていますが、今年は子どもたちの迫力ある演技に元気をもらいました」と笑顔で話していました。



都城島津邸グランドオープン

都城島津至宝展

都城島津家に伝わる史料の実物を公開展示する「至宝展」が、10月30日から都城島津伝承館で始まりました。今回、展示されているのは鉄錆地南蛮胴具足や高麗虎狩図屏風など、島津家から寄贈された約1万点の一部。来館者は、歴史観光ガイドの解説を聞きながら都城島津家にまつわる歴史に触れていました。姉妹で訪れていた平山壽子さん（福岡市）は「父が島津家と親交があり小さなころから知っていました。今回、あらためて都城の歴史を知り、誇りに思っています」と話していました。



野外で食べる焼肉は最高！

都城観音池焼肉カーニバル

日本一の肉のまち都城を県内外にPRしようと都城観音池焼肉カーニバルが10月30日、観音池公園で開かれました。2、500席分の座席が用意された会場に、約2万人が来場。それぞれのテーブルに炭火コンロが用意された会場では、訪れた多くの家族連れが宮崎産の牛や豚、鶏の肉を味わったり、歌や踊りなどのステージイベントを楽しんだりしました。池元博三さん（高城町）は「2年連続で来ています。やっぱり野外で食べる」と格別な味がします」と食欲の秋を満喫していました。



昔ながらの町並みが舞台

東目街道秋まつり

東目街道秋まつりが10月30日、旧後藤家商家交流資料館周辺で行われました。古くは薩摩と日向を結んでいた東目街道。今でも当時をしのばせる古い家屋や武家屋敷が残っていて、それを広く知ってもらおうと地元の商工会が10年前から開催しています。今年、コンサートやマグロの刺し身ふるまい、高城プロレスなどが行われ、多くの人出でにぎわいました。藤本幸多さん（高城小4年）は「もちまきを目当てに来ました。お菓子がいっぱい拾えて楽しかった」と顔をほころばせていました。





### ご神体に触れ、健康祈願

#### 山之口弥五郎どんまつり

山之口弥五郎どんまつりが11月3日、的野正八幡宮で行われました。顔に朱面を着けた身の丈4尺の弥五郎どんのご神体を先頭に、みこしやみこなど約200人が行列を組み浜殿下り。弥五郎どんに触れると病気をしないといわれているため、沿道を埋めた見物客は、弥五郎どんが姿を見せると、競って取り囲み着物などに触れて健康を祈願していました。徳水聖奈さん（富吉小6年）は「稚児として初めて行列に参加しました。伝統ある服を着てどきどきしました」と笑顔で話していました。



### 故人との別れを惜しみ700人が参列

#### 名誉市民 故堀之内久男先生 都城市葬

名誉市民で元都城市長の故堀之内久男さんの都城市葬が11月6日、早水公園体育文化センターで行われました。式には、遺族をはじめ国会議員や市民ら700人が参列。政界で活躍していたころの雄姿や名誉市民推戴式の映像などが上映された後、参列者全員で黙とうをささげました。葬儀委員長の長峯市長は「古里をこよなく愛し、尽くしてこられた堀之内先生。市の将来を末永く見守ってください」と追悼し、生前の功績をたたえました。最後に参列者らは祭壇に献花し別れを惜しまました。



### 旬の食材をべろり

#### 市場まつり

昭和55年の開設から30周年を迎えた公設地方卸売市場で11月7日、恒例の市場まつりが開催されました。新鮮な魚介類や野菜などが市価よりも安く手に入るとあって、朝早くから多くの市民が来場し、買い物を楽しんでいました。そのほか、花の苗の無料配布や魚のあら炊きの振る舞い、マグロの解体ショーなどが行われ、来場者からは長蛇の列を作っていました。家族で訪れた河野逸美さん（上水流町）は「毎年来ています。市価よりも安く買えるので楽しみです」と笑顔を見せていました。



### 晩秋を彩る歴史の祭典

#### 島津発祥まつり

県の一村一祭に指定されている島津発祥まつりが11月1日から7日まで、都城歴史資料館を中心に行われました。今年も出陣式に始まり、絵画展や講演会、琵琶の演奏会、パレードなどさまざまなイベントに約1万5,000人が来場。最終日には明道館パレードが行われ、戊辰戦争で活躍した都城島津一番隊や歴代当主にふんした騎馬武者などが市内を練り歩きました。清水春海さん（葦原町）は「娘2人が桜姫として参加しました。2人ともお姫様みたいとはしゃいでいます」と喜んでいました。





## 南

九州大学都城キャンパスの学生らでつくるボランティアサークル「みどりの会」。この会の会長が古田清実さん（南九州大学4年）です。

昭和42年に移転前の高鍋キャンパス開学と同時に発足したサークルで、環境造園学科や環境園芸学科の学生40人が所属。毎週土曜日に、自分では庭木の手入れが難しい高齢者や身体障がい者の自宅に行き、枝切りや刈り込みなどのせ

ん定活動をしています。

岐阜県出身の古田さんは、中学時代に造園業を営む父親の手伝いをして造園に興味を持ち、南九州大学へ入学。その後2年生の時に、友人の誘いでこのサークルに入会し、ボランティア活動を通して地域への貢献や技術の向上に役立てています。

作業をする前には、必ず古田さん自らが事前に下見をし、メンバーとのミーティングを行い、綿密



## 南九州大学都城キャンパス ボランティアサークルみどりの会

会長 古田清実さんきよよ さね

な計画を立てて挑みます。専門家と比べて技術は未熟ながらも、精一杯のもてなしの心を持って取り組み「ありきたりだけど、きれいになった庭を見てありがたうと言ってくれるのがうれしい」と活動の魅力を話す古田さん。

移転後の都城キャンパスでの活動に地元の建設業や造園業を営む人たちと共存が出来るかなど不安な面がありました。活動の地域を都城キャンパスがある妻ヶ丘地

区に絞ったり、対象を民生委員から紹介された依頼者のみに限定したりと地域に迷惑を掛けずに、貢献できるように心掛けています。

現在は、就職活動で忙しい毎日を過ごしていますが、時間の許す限り後輩たちと一緒にせん定活動をこなし「学校生活で学んだことやこの活動で得た技術を基にして、自分より技術も経験もあるおやじを超えたい」と大きな目標に向かって奮闘中です。

# 都城讃歌

## 【ただいま都城】

藤嶋 千保子さん



ふじしま ちほこ  
藤嶋 千保子

### ◎プロフィール

昭和54年、都北町生まれ。宮崎県立都城工業高等学校出身。現在、東京にてパッケージ、WEB、動画の企画・デザイン・制作をする主婦マルチデザイナー

「ただいま」「おかえり」「次はいっ帰ってくるの?」どこにでもあるこの会話を実家の父母と年に3、4回交わっています。私には帰る場所がある。それがどれだけ心の支えとなってるか。帰郷した時、何をするわけでもないのですが、心が落ち着いてリセットできます。宮崎空港に着いてから、搭乗出口までのあの感情高ぶる瞬間、10年たった今も変わりません。そして、東京に発つときの感情も20代の時と変わらず涙腺がゆるみます。何度あの空港で涙を流したか、何度泣くのを我慢してヒクヒク鼻を広げて飛行機に乗ったか。最近では、高速バスで帰るのが感情なしでいられるので

楽です(笑)。でも送ってもらいたいという甘えもありつつ…。今では、東京に家族もいて大事な帰る場所。場所はどこの前、でもこの先何があるか分からない。いつかは、当たり前じゃなくなるという覚悟。帰るたびに、小さくなっていく親の後姿、隠しきれない白髪の数。自分も歳をとっていくわけですね。避けられませんが。当たり前前に、挨拶を交わせる瞬間を大事にしていきたいです。そして、帰る場所、大好きな場所「都城」があるから、今日も頑張れます。帰省の季節、笑顔で「おかえり」と言ってくれる家族に会えるのが楽しみです。

# 学校へ行こう

## 妻ヶ丘中学校

妻ヶ丘町13街区3号 ☎22-0283



### ◎学校のシンボル

#### 「ONOKO SAMURAI」

世界的に知られている流政之(ながれまさゆき)さんによる男女2体の彫像。「おのこ像」は、未来に羽ばたこうとする少年のりりしい姿の象徴で、「おとめ像」は静かな中にある乙女の情熱を象徴しています

## あいさつのよい学校

### 妻ヶ丘中学校生徒会

妻ヶ丘中学校は、全校生徒592人、創立64年の歴史ある学校です。「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒像を目指し、毎日学校生活を過ごしています。

妻ヶ丘中はよく他校から来られる先生方にあいさつがよいと褒められます。廊下などで先生方とすれ違ふと「おはようございます」「こんにちは」と元気よくあいさつをする生徒がたくさんいます。しかし、私たちならもっとよくする事ができるのではないかと考えてつくったのが今年のスローガン「心の底から

明るいあいさつ Always keep the faith」です。

また、私たちは行事や部活動にも力を入れています。特に行事は先輩が築き上げた伝統を引き継ぎつつ、私たちらしさを加えながら作り上げました。先日行われた文化祭では、どのクラスも合唱コンクールへの取り組みが素晴らしく、きれいな歌声を響かせていました。

妻ヶ丘中では近年夏休みに公民館などの清掃ボランティアを行うなどして、地域の人のきずなを深めています。これからは伝統を守るだけでなく、ボランティアのような新しい伝統をつくり、地域に愛される学校を目指していきます。